東日本大震災被災地における
ボランティア活動からの
学生たちの学びの発表会
要旨集

	だけど無力ではない―［日本赤十字北海道看護大学　災害 beatS 研究会］
小休憩	
15:00～15:30	被災地のボランティア活動で学んだこと―被災地現場の状況を見て―［北海道教育大学旭川校　増田一祥］
15:30～16:00	ふくしまキッズ北海道冬プログラム　ボランティア活動報告［北海道教育大学旭川校　林香里］
小休憩	
16:10～16:40	会場から質疑応答
16:40~16:55	パネリストからのコメント
16:55~17:00	総括
17:00	閉会

つながり・笑顔・感謝
—岩手県宮古市でのボランティア活動からの学び—

福地　健介　小松　昌紀　岡本　純一　遠藤　弓人　高根澤　孔明　間藤　成一
永井　里瑛　三上　智子　伊藤　毅　　東　怜美　長谷部　優（以上、旭川大学ボランティアサークル　円陣～EnginE～）

１．はじめに

私達は普段の学び合いの場や自分の将来像から学習成果を存分に活かすとともに、復興の小さなきっかけになりたいと願い、2011年３月13日にこのボランティアサークルを立ち上げました。今後ともこの思いを絶やさず、継続することを最優先に活動を続けていきます。

２．旭川市内での活動

まず、私たちは旭川で自分たちの身の丈で出来ることを探しました。そして学内及び旭川空港で募金活動を行い、28万円余を集め日本赤十字社北海道支部を通し、被災地に寄付しました。その後、６月に行われた大学祭では、石巻焼きそばと仙台風いも煮を販売しました。ともに多くの方々にご協力いただき誠に感謝いたしております。これらの活動を通じて、自分たちの「思い」を形にする大切さを再認識しました。

３．岩手県宮古市での活動

９月 28 日～10 月２日の間、岩手県宮古市内にある３か所の仮設住宅でサロン活動を行いました。仮設住宅内の住民共有スペースである談話室で、飲み物やお菓子を提供したり、ほかのボランティア団体（札幌交響楽団や江戸川区の市民団体など）の活動の手伝いをしたり、将棋やあやとり、ボール遊びなどをしてコミュニケーションを図りました。老若男女問わず、たくさんの方と巡り会い、震災当初のお話や今の暮らしについて多くのことについて伺うことができました。被災地で人々と実際に関わりあう意味を考えさせられました。今回出会った宮古市の方たちとは今後も交流を続けていきたいと考えております。

４．今回の学びと今後の課題

４日間の活動から支援者として訪れたはずの自分たちが実は無力であることに気づかされました。被災された方々との交流を通じて，私たちは人と人とのつながり，笑顔の大切

被災地のボランティア活動で学んだこと
―被災地現場の状況を見て―

増田一祥（北海道教育大学旭川校教員養成課程英語教育専攻３年）

１．はじめに

今回自分が被災地のボランティア活動をしようと思った理由は、テレビやラジオなどの情報メディアを通して伝えられる被災地の状況を聞いて、何か被災地のために自分ができることはないかと思ったのがきっかけである。

２．現場でのボランティア活動について

2011 年 5 月 2 日～5 月 5 日の間、岩手県遠野市の「遠野まごころネットワーク」に登録を行ない陸前高田市で実際にボランティア活動に取り組むこととなった。実際には 5 月 3 日と 4 日しか活動できなかったがとても貴重な体験となった。1 日目は水産加工工場から流れ出して放置されたままのサンマや鮭などの回収を、2 日目は陸前高田市東部にある津波の被害を受けた学校のがれき撤去作業を行なった。

←被害を受けた水産加工工場

３．一緒に活動した人たちを見て

ほかのボランティアの方々とお話をする機会も多々あった。ほとんどの人が自費で遠野市まで来ている人たちで沖縄から来ている人もいた。話を聞いてみるとほかのボランティ

※ボランティアの受付については、下記までお問い合わせください。

ふくしまキッズ北海道プログラム　ボランティア事務局(環境NGO ezorock)
TEL/FAX011-562-0081　E-mail:info@ezorock.org